



## 郵船グループ、9月末から神戸発香港向け冷蔵混載サービス



MTIの田村健次氏

神戸発香港向け冷蔵混載サービス、9月末開始  
日本郵船グループ、冷蔵・冷凍貨物輸送でアピール

日本郵船グループのNYKコンテナライン関西支店とユニエツクスは28日、大阪市内でセミナー「リーファーコンテナ、CA(Controlled Atmosphere)コンテナによる冷蔵・冷凍貨物輸送」を開催した。リーファーコンテナやCAコンテナの特長などを紹介し、CAコンテナによるアジア向け、欧州向けでの輸送概要も説明。9月末から神戸発香港向けで冷蔵混載サービスを実施することも明らかにし、リーファーコンテナやCAコンテナの利用をアピールした。

NYKコンテナラインは、郵船グループのMTIのCA輸送技術コンサルティングも実施している。セミナーでは、MTIの田村健次取締役営業グループ長が「リーファーコンテナ・CAコンテナの構造・機能・利用上の注意点と輸送実績」で講演。リーファーコンテナについては、単なる冷凍貨物だけでなく温度変化に敏感な貨物、一定温度が必要な貨物(フィルムや医薬品など)の輸送にも最適な点を説明。例えば昨年、絵画をリーファーコンテナで輸送したという。

2013年に日本で初めてCAコンテナを使った輸出した事例も紹介。福岡市中央卸売市場の成果卸売会社の福岡大同青果から、春菊や水菜などの葉物野菜やイチゴなどを航空輸送から海上輸送に転換したい提案があり検討。博多港にCAコンテナを蔵置して、陸上蔵地試験を2回行い、混載で葉物野菜などに最適な酸素濃度や温度を検証し、博多から香港に輸送試験を2回行った。その後、台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、フランスにCAコンテナで輸出していることを挙げ、野菜や果物の鮮度が保たれていることを強調した。

ユニエツクス関西支店の吉岡幸祐営業開発グループチーム長代理は「CAコンテナを利用した初の欧州向け輸送実績と青果物の輸送方法の検討」で講演した。CAコンテナを利用した初の欧州向け青果物輸送の事例として、昨年12月～今年1月に徳島県産かんきつ類(温州みかん、はっさく、ゆず)を海上輸送。20フィートのリーファーコンテナ1本とCAコンテナ1本に同数量を積み込んでそれぞれの効果の違いを検証した。仕向け地はル・アーブル港で、輸入者は欧州大手の食品専門物流業者シーフリゴ。

神戸で12月5日に貨物を引き取り、同11日に神戸出港。ル・アーブル港に1月22日入港。同26日検品し、30日にパリ食材会に出展した。その結果、温州みかんは、リーファーコンテナでは酸味が薄いのが、CAコンテナは甘酸っぱかった。はっさくは、CAのほうが若干酸っぱく日本出荷時と同じだったという。ゆずは、どちらも同じような結

果だった。青果物によって適切な温度・湿度・酸素・二酸化炭素濃度が異なるため、吉岡氏は「輸送結果のデータ、ノウハウの蓄積が必要」と指摘した。

また同社が9月末から神戸発香港向け冷蔵混載サービスを実施することを説明。1週間に1回の運航スケジュールで、神戸出港から香港到着まで3日で輸送。コンテナ設定温度は青果物の輸送に最適なプラス1℃としている。



ユニエツクスの吉岡幸祐氏

[記事一覧に戻る](#)

[この記事を印刷する](#)